

# 情報システムと企業間関係

今井久登

## 1. はじめに

情報システムとは何か。筆者はこの問にすぐに答えることはできないが、西垣(1994)をもとに考えてみる。

西垣(1994)によれば、マルチメディアとは複数のメディアの共存であり、デジタルな融合のテクノロジーである。そして、マルチメディアはパッケージ型、ネットワーク型、シアター型の3つに分かれる。マルチメディアのネットワーク型は通信回線のネットワークを使ったシステムであり、企業で利用されることが多い。

そこで近年注目されているのがグループウェアである。グループウェアとは共通の目的をもった幾人かのグループの共同作業を支援するコンピュータ・システムである。(西垣1994: 142を参照。)

筆者はどのように企業が情報システムを利用するのかをみたいので、ここではグループウェアを情報システムとして考えていきたい。

筆者の問題意識およびここでの課題はどのように企業が、特に企業間で、情報システムを利用できるのかを考えることである。ただし、ここでは企業は主にメーカーに限ることとする。そこで、2でわが国の企業が情報システムを導入する必要性を述べた上で、3で企業、特にメーカーが情報システムを利用できる範囲を明らかにする。4では商工中金調査部(1995)と筆者の調査(今井1993)をもとに利用の実態をみる。5はむすびである。

## 2. 情報システムを導入する必要性

わが国のメーカーは国際的な競争の中でコストや品質の優位性を得るために努力してきた。この中で大手メーカーは情報システムを積極的に導入している。たとえば、花王では全社的な情報システムを早期から構築し、利用している。(平坂編1996を参照。)

また、現在の中小メーカーを取り巻く経営環境は厳しい。たとえば、下請中小メーカーは親メーカーの海外進出によって受注減に苦しんでいるものが多い。中小メーカーは厳しい環境に積極的に適応していかなければならないが、その一つ的手段として情報システムの導入・利用を指摘できる。

つまり、国際的な競争の中でわが国の大手メーカーも中小メーカーも情報システムを導入する必要性は大きいといえる。

### 3. 情報システムを利用できる範囲

企業、特にメーカーは以下のようなさまざまな分野で情報システムを利用できる。

#### (1) 情報処理のタイプ

定型的な業務にも非定型的な業務にも利用できる。

#### (2) 意思決定のレベル

業務的、管理的な意思決定にも戦略的な意思決定にも利用できる。

#### (3) 職能分野

事務分野でも生産・開発分野でも利用できる。前者はOA化に、後者はFA化になる。

OA化の具体例としては、小野(1996)によれば事務分野でホワイトカラーの生産性を向上させる手段として情報システムを利用できる。

FA化の具体例としては、浅井(1996)によれば金型メーカーのCAD/CAM利用がある。

#### (4) システムの範囲

企業内でも企業間でも利用できる。後者は顧客、ディーラー、親メーカーなどの受注先との関係や仕入先との関係である。この具体例としては、リエンジニアリング推進協議会編(1996)によれば、株式会社菱食が受発注のオンライン化により業務改善を行っている。

## 4. 利用の実態

現状でもわが国の中小メーカーのOA化、FA化は相当に進んでいる。たとえば、商工中金調査部(1995: 56-60)によれば図1のような状況である。

また、親メーカーは下請中小メーカーとの間でオンライン化を進めている。その目的は筆者の調査(今井1993)では、連絡時間の短縮、正確な伝達、発注手続きの省力化、などである。

これらの目的は取引業務の効率化として集約できる。このことは親メーカーと下請中小メーカーとの間でリスクと成果の共有がなされれば、企業間での情報システムの導入が下請中小メーカーにとっても有益であることを示唆している。

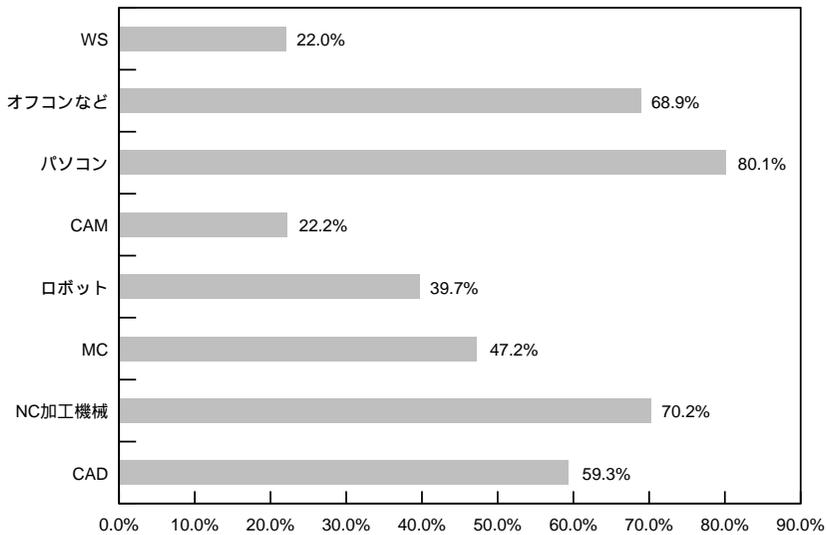


図1. 情報機器の導入率

## 5. むすび

本稿の課題はどのように企業が、特に企業間で、情報システムを利用できるのかを考えることであった。

2では国際的な競争の中でわが国のメーカーは情報システムを導入する必要性が大きいことを述べた。

3では企業がさまざまな分野で情報システムを利用できることを示した。

4ではわが国の中小メーカーのOA化、FA化の実態を示し、特に下請中小メーカーが情報システムを導入する意義を明らかにした。

結局、情報システムの導入は企業にこれまでの事業のあり方を見変えることを迫る。これをビジネス・チャンスとして前向きに捉えられる企業が伸びていく。

### 引用文献

- 浅井敬一郎 1996、「技術変化に対応する技能形成 金型産業を中心に」日本中小企業学会第16回全国大会報告。(日本中小企業学会(編)1997、『インターネット時代の中小企業の存立』同友館,に収録.)
- 平坂敏夫(編)1996、『花王情報システム革命』ダイヤモンド社。
- 今井久登 1993、「外注関係のオンライン化」経営と経済,72-4。
- 西垣 通 1994、『マルチメディア』岩波書店。
- 小野 哲 1996、「生産性支配要因に基づくホワイトカラー生産性の向上法」経理研究,40。
- リエンジニアリング推進協議会(編)1996、『組織・業務革新事例集』(社)日本能率協会。
- 商工中金調査部 1995、『第5回中小機械・金属工業分業構造実態調査報告書』。